

守谷工場 情報BOX

工場データ

- 竣工：平成16年7月
- 敷地面積：約30,000㎡
- 工場延べ床面積：8,078㎡
- 交通：〈車の場合〉
常磐自動車道・谷和原ICより10分
〈高速バスの場合〉
東京駅八重洲南口より
岩井・猿島行バスで
内守谷工業団地前下車（約1時間）
※平成17年10月に開業する
「つくばエクスプレス守谷駅（仮）」
から車で15分
- 所在地：茨城県水海道市内守谷3886
- お問合せ：守谷工場
TEL.0297-20-3811

●アクセスマップ



ゴルフガーデン ザ・ロンド

守谷工場の隣接地には、ゴルフ練習場「ゴルフガーデン ザ・ロンド」が営業しており、自然との共生を謳う同工場からの景色に華を添えています。緑の中で汗を流し、身も心もリフレッシュ！従業員一同、お越しをお待ちしています。

- 営業時間 午前10時～午後10時(年中無休)
- 入場料 200円
- ボール料金
200球/1800円
500球/4000円
1000球/7000円
打ち放題(3時間)/1500円
※平日 午前10時～午後5時
- 施設使用料
グリーン
30分：300円/1時間：500円
バンカー
30分：300円/1時間：500円
グリーン・バンカー
30分：400円/1時間：600円



フロント係の小川美野里さんは、いつもニコニコ

編集後記

「守谷工場」がついに移動しました。最新のアイデア・技術を盛り込んだ同工場は、これからのパッケージ工場のスタンダードになるでしょう。ギンポーパックはこれからも、安心・安全をお届けし続けます。(富島)

ギンポーパック通信 (ジーズ) Vol.12

- 発行 株式会社ギンポーパック
TEL.03-3866-1101(代) URL <http://www.gnpack.co.jp>
- 編集・制作 フーズコア (Foods CORE)
TEL.03-5649-2081 URL <http://www.foodscore.com>
- 発行年月日 2004年8月15日

ギンポーパック通信



ジーズ
Vol.12

contents

- 社長挨拶
ギンポーブランドの向上に向けて
- 新工場のご案内
ようこそ、21世紀の工場へ！
- 守谷工場情報BOX
工場データ/ゴルフガーデン ザ・ロンド

社長挨拶

ギンポーブランドの 向上に向けて

代表取締役社長 飯島佑輔

企業の存続をも脅かす「ブランド神話の崩壊」が各分野で頻発する昨今、いかにして「ギンポーブランド」を向上させるかが、社会に通用する何よりの道と考えています。ブランドとはつまり、食品容器の場合、やはり品質の一言に尽きるでしょう。

食の安全性が、これまでに強く求められている現代です。食に関わる機材の安全性も、同様に高いハードルが要求されています。

このように、食の安全性と同等レベルまで包材の質を高めて欲しいという機運が盛り上がり、「21世紀に耐える食品容器工場」が、ハード面の最低条件になってきました。こうした時代の流れの中、いわば将来的なニーズの先取りとして、「食を包むことの安全性」を第一義に考えて新工場建設を決意しました。

守谷工場は、食の安全ニーズに応えるのが一番の目的ではありますが、同時に食品容器としての様々な品質要求に耐えるものを作るという義務も、存分に果たす所存です。

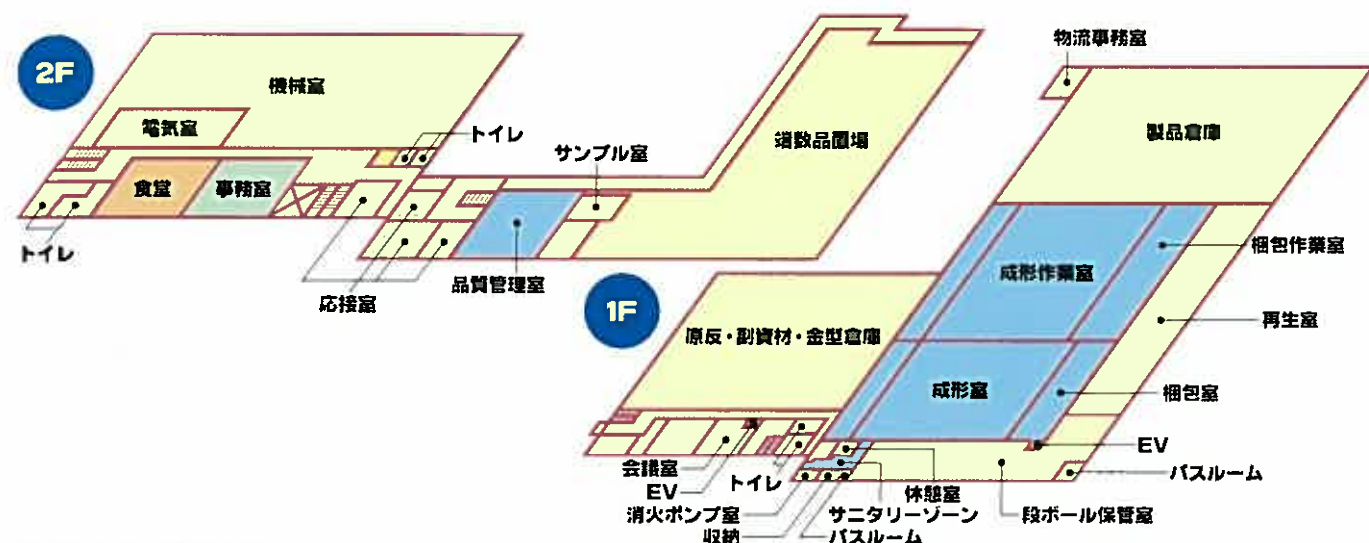
「環境」と「安全」と「衛生」を組み合わせないと、これからの食品容器工場は成り立っていきません。例えば環境問題では、成形段階で発生する端材などのリサイクル率を高め、廃棄物排出量をなくす方向も考えなければならぬでしょう。また安全面では、ここで働く社員のための徹底した安全策を講じるなど、「21世紀型工場」の名に恥じないノウハウと配慮を考え付く限り取り入れました。

守谷工場の完成はギンポーパックのブランド力の向上に大いに役立つと確信しております。



ようこそ、 21世紀の工場へ！

弊社の新たな生産拠点「守谷工場」が、平成16年7月12日に稼働を開始しました。HACCP対応も視野に入れた高度な衛生管理や独自の異物混入対策、また、幅広い来訪者を受け入れるためのユニバーサルデザイン思想まで、まさに、今日考えられる最高レベルの“知恵”と“技術”を投入しました。さらに、高付加価値型新素材への成形対応をも可能にしています。今後、私たちは、守谷工場をギンポーパックの実質的な主力生産拠点へと進化させていきます。



Interview



あらゆる面で最新の技術を取り入れました。

工場長（理事・製造本部長兼任） 菅木憲治（ちさき・けんじ）

建物に接した周囲に細い溝を掘りました。その中に常時水を流しています。溝の上には蓋の類が一切置かれていないため、この細い水の流れが、いわば建物と周囲を完全に隔てている形になります。これは「側溝（そっこう）」と呼ばれるもので、歩行虫、つまり、這って侵入する虫への予防対策です。飛行虫などに関しては、すでに様々な対処方法が確立さ

れていますが、歩行虫に対する問いかけが需要家から予想以上に多かったため、独自に発想、考案しました。日本初の歩行虫対策だと思えます。もしかしたら、世界初かもしれません。とにかく、この守谷工場は、食品容器製造工場として、あらゆる面で考えられる最新の技術を取り入れました。こうした流れが業界のスタンダードになると思っています。



やりがいのある仕事です！

成形課 円崎達巴（えんざき・たつや）

成形って奥が深いです。セットすれば後は機械が勝手に作ってくれるってわけには行きません。最新鋭の機械が導入されていますが、先輩方の仕事を見て、やはりオペレーターの腕は必要だと痛感します。毎日が勉強です。頑張ってる良い製品をガンガン作ります。それにしても、衛生管理はすごいですよね。最初はトイレのドアが開かなくて困りました。



工場がこんなに人に優しいなんて驚きました。

製品課 飯田めぐみ（いいだ・めぐみ）

新しい工場が出来ると聞いて、お菓子の製造会社から転職してきました。中身を造る仕事から、外側のパッケージを作ることに変わったわけですが、パッケージの会社がこんなに人に優しく、おまけに衛生的だなんて、びっくり。食品工場以上です。工場のまわりには緑がたくさんあるし、とても素敵な環境で働けて、毎日がとても充実しています。



成形・梱包ゾーン

成形ゾーンは、真空圧空成形機等が10ライン入るキャパシティを持っていますが、今回の稼働は、まず4ラインが成形を開始しています。残りの6ラインも、今後3年以内に設置の予定です。品質・衛生管理面での大きな特徴は、ISO9001に続き、環境管理のISO14001、食品安全マネジメント規格ISO22000認証を視野に入れた設計になっています。

- ①成形ゾーンと梱包ゾーンを完全に分離。製品全量が金属探知装置を通る。
- ②成形エリアにダンボールは持ち込まない。（紙粉混入防止）
- ③HACCP対応の設計。

の3点がポイントで、成形・梱包ゾーンはクラス10万の衛生管理を達成しています。さらに、もうひとつの特徴は、個々の成形機を透明のアクリル板で覆いました。これは、成形機メーカーからも「初の試み」といわれたクリーン化を徹底した独創的な発想です。

安心・安全を重視したユニバーサルデザインの採用

「21世紀の食品容器工場」のコンセプトを実現しているのがユニバーサルデザインの採用です。スロープが設けられた2重ドアの正面玄関から2階の受付までエレベーターで直結、車椅子利用者用の受付窓口や専用トイレの設置など、当工場の従業員だけでなく、近隣からの来訪者も視野に入れて全館にバリアフリーを導入しています。

また、玄関前は芝生におおわれたなだらかな丘陵になっており、緑を多く配した働きやすい環境と地元との調和を考え、「地域と密着し、地域の人が安らげる場にしたい」という守谷工場の基本構想を実現しています。



①アクリル板で覆われた成形機②製品はベルトコンベアでクリーンルームの梱包ゾーンへ③原料の搬入は、2重扉のバスルームを経て成形ゾーンへ④～⑤独立した広い品質管理室、入口にエアシャワー室を設置⑥「側溝（そっこう）」、⑦R処理を施した床面コーナーは、埃が溜りにくい設計⑧自動ラックを設置した広い製品倉庫⑨～⑩フロアがブルーの部屋は全てクリーン化されたブース。粘着テープの使用、エアシャワー室通過に加え、ブーツ底の洗浄機を設置⑪エレベーターもバリアフリー⑫受付は、車椅子用の窓口も設置⑬車椅子用のトイレ⑭広々とした芝生と緑に囲まれた正面玄関へのスロープ